（様式５－１）

実績概要書

（ホームページ掲載用）

調査研究活動のテーマ	舗装損傷状況について
団体名	一般財団法人　秋田県建設・工業技術センター
代表者	仁村誠司

（目的）

供用されている舗装損傷状況から、現行の設計・施工方法について考えてみることにした。

（概要）

とある管内の路面性状調査結果のデータを利用した。

設計で期待していた期間より早く修繕を行うこととなった箇所を抽出し、その要因を考えた。

道路の利用（社会状況）と気候や支持地盤（自然状況）が組み合わさることにより、従来の設計方法では耐久性が不足する箇所があると推察した。

特に大型車交通量が一定量を超える区間では耐久性に支障が現れる傾向が見られた。

一方で交通量が少ないものの、早期に損傷が現れている箇所もあった。

（成果）

供用されている道路の現状把握と今後の課題について考察できた。

現行の設計・施工基準で整備された道路は、路線・区間により舗装損傷程度に差が生じていることが改めて確認できた。このことにより、計画時に期待した耐久性を満たしていない区間が少なくないことがわかった。

このような区間に現行の手法を継続する場合は、修繕計画を短く設定することになると考える。または、十分な耐久性を満たすための調査、設計、施工方法を取り入れていく必要がある。その際には共通する部分、箇所ごと対策があると思うが、共通する部分の対策について探求していくことは公益性があると考える。

一方で、十分な耐久性を示している区間には現行の設計・施工方法は有効であると考える。

今後は類似箇所との比較、専門家との意見交換を行うなどして知見を集約していくことも必要である。